



令和4年 8月5日
佛教大学附属幼稚園

「仏教保育9月のねらい」

報恩感謝

「立ち止まって周りに感謝(学生のことば)」

園長 佐藤和順

7月号に続いて、佛教大学幼児教育学科の授業の課題として、学生が作成した「学生のことば」を紹介させていただきます

幼児教育学科1年生倉貫ひなたさんの「ことば」です。

長かった夏休みが終わり、いよいよ2学期が始まる9月です。どのような夏休みを過ごされましたか。子どもたちが元気いっぱいに登園して、授業やボランティア等で会えることを願っています。

さて今月の保育目標は「報恩感謝(ほうおんかんしゃ)社会や自然の恵みに感謝しよう」です。「報恩感謝」とは自己の正しい認識と把握によって、人として自らの不完全さを自覚した時、天地自然の多くの恵みを受けていかされていることに気づき家族をはじめ周囲への感謝の想いが自ら湧きあがってくることを意味します。

幼児教育の勉強をする過程で、私自身の幼児期のお話を聞きました。私は生まれてから3歳まで卵と小麦のアレルギーがありました。その間は保育所の給食やおやつに卵、小麦が入っている献立の時は、母や祖母が卵、小麦の入っていないものを作って、持たせてくれていたそうです。その当時のことは覚えていませんが、今になりその頃のお話をきくと改めて家族や環境のありがたさに気づき、今まで健康に幸せに過ごすことができたのも家族や周りの人たちなど、安定した環境があったためだと感じました。

例えば、「朝起きる、ご飯を食べる、どこかに出かける」この3つの行いだけでも太陽の陽や、母の起こしてくれる声、農家の皆さんの働き、電車の車掌さんなど、言い尽くせないたくさんの人や自然、社会のおかげで日々生活が行えています。しかし当たり前の日々の中で、そのありがたさに気づくことや感謝を伝えることは簡単ではありません。実際に私もこの「ことば」を書くまでは何気ない日々のありがたさに気づくことは出来ませんでした。この「ことば」をきっかけに日々の感謝の想いを感じることができればと思います。感謝に気づくことも大切ですが、伝えることも大切です。人間には言葉があり伝えることが出来ます。感謝を口にしていくことでより一層、その人や環境に感謝を感じることが出来ると思います。

子どもは大人が思っているよりも繊細で小さなことにも気づきます。その中で毎日、楽しかったこと、嬉しかったことなどを一緒に話し合うことが、小さな幸せや周りへの感謝に繋がると思います。

